

「足袋蔵のまち行田」マップ制作

八代研究室
01412150 山賀 希

1. はじめに

2017年4月28日に埼玉県行田市が日本遺産に認定された。日本遺産とは、2015年に文化庁により創設された制度で、世界遺産と異なり、日本に点在する文化財の歴史的魅力を国内外に発信し、地域活性をはかることを目的としている。認定をきっかけに、2017年、行田市では3年計画で足袋蔵等再活用マーケティング「行田プロジェクト」が始まった。本研究は、行田市への来訪者を対象としたヒアリング調査をもとに「足袋蔵のまち行田」マップを制作する。

2 「行田プロジェクト」ヒアリング調査

2.1 調査概要 3年計画の初年である今年、「足袋蔵のまち行田」の魅力に来訪者の視点から明らかにする調査を行った。この、調査を通じて「足袋蔵のまち行田」のファンとなりえる層を見つけ出し、現段階で行田市に足りないものを明確化する。

2017年8月4日の予備調査を含め、同年8月20日から9月30日まで合計16回のヒアリング調査をNPO法人まちづくりミュージアムにて行い、合計58名の来訪者から意見を聴くことができた。

2.2 調査結果 図1は日本遺産認定認知度と行田市の来訪頻度の関係を表している。日本遺産の認定認知度は4割に満たないが、認知している来訪者の約6割は行田市へ2回以上訪れている。図2で行田市を知ったきっかけと行田市来訪回数内訳をみると、来訪者の行田市を知ったきっかけが、鉄剣が発見されたさきたま古墳群13%、映画「のぼうの城」の舞台である忍城12%、古代蓮12%が上位を占め、これらが足袋蔵4%を上回っていることがわかる。また、来訪者の約6割は行田市へ訪れると足袋蔵へ向かうが、来訪回数を重ねると約2割まで下がる。

「足袋蔵のまち行田」への意見をまとめた表1を見ると、歴史的町並みを残して多種多様な足袋蔵への肯定的意見が多い。しかし、観光地の距離や繋がりのなさ、PRの悪さが観光的ではないという否定的

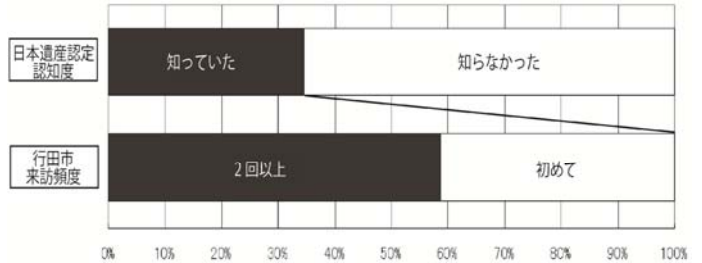


図1. 日本遺産認定認知度と行田市来訪頻度

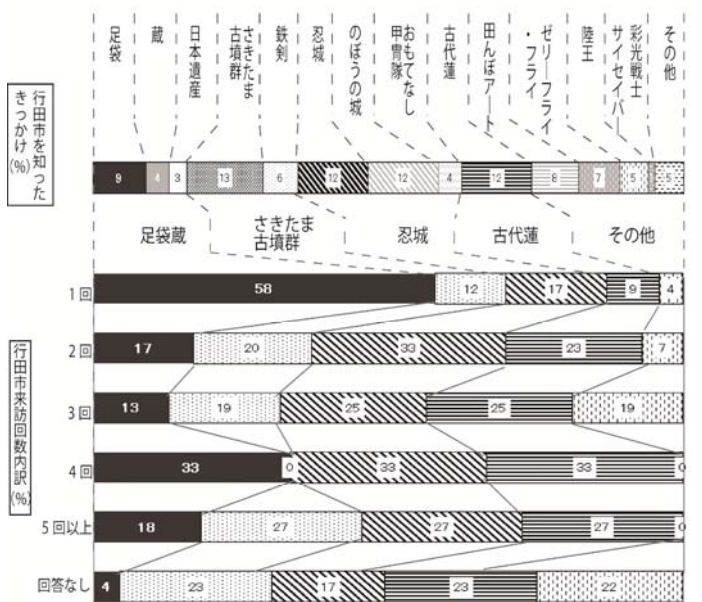


図2. 行田市を知ったきっかけと来訪回数内訳

表1. 足袋蔵のまち行田への意見

肯定的意見	足袋蔵の種類・スタイルの多さが良い(驚いた)
	歴史的なモチーフを今も残しているのが良い
	古い物でありながら丁寧に使われているという印象
	大正の色を残していることが貴重であり良い
	歩いていて見つけた時の「ラッキー」さが良い
	無理に通りに集める必要性はあまり感じない
	落ち着いており良い
否定的意見	裏通りからも蔵を見ることができる
	静かで散歩するなら良さそう
	案内がないと歩き辛い
	(観光地が)間が抜けた気がある
	次いでで観光できる場所を探しにくい
	まとまりがない→巡回コースが確立されていない
	行田市までの道のりはわかりやすいが、市内の移動はわかりにくい
移動してから車を止める場所を見つけられない	
足袋をアピールしているのにそれらしいお店が見当たらない	
情報提供のための情報が少ない→マップや冊子など	
散策エリアごとの区分けをしてほしい(店舗ごと・写真スポット・食事処など)	

意見もあった。

3. 「足袋蔵のまち行田」マップ制作

行田市は忍城の城下町であったことから、敵の侵入を容易に行わせないクランク状の道が多い。調査中でも、「道が分からない」「蔵が見つからない」という意見が多くあった。筆者自身も調査中にも道に迷い、目的の蔵を見失ってしまうことがあった。本制作では、蔵の配置をマップで明確に表現すること、どの方向から見てもわかりやすく迷子にならないマップづくりを目標とした。

3.1 ミウラ折り (図3) 折り方は、携帯に便利で開閉が容易なミウラ折りを採用した。ミウラ折りとは、1997年に三浦公亮が考案した紙の折り方で、対角線の両端部分を持ち左右に伸ばすことで、広げることとたたむことも容易にできる。また、用紙の大きさや等分方法にも限定されない。直交軸からのずれは0度と90度以外であれば問題ないが、本制作では、最も美しいとされている6度を採用した。街を東西に横断する国道125号とそれに直交する行田市駅から南方に伸びる主要道路の2本をマップの縦横の主軸とし、材料は折りの強度や足袋の和のイメージを勘案して、和紙を使用した。

3.2 マップのレイアウト (図4) 目的の蔵までのアプローチだけでなく、街角や蔵付近にある特徴的な建物をマップに明記し、折り目に接している足袋蔵や歴史的な建物は切り込みを入れ、広げたときに立ち上がって立体的に目立つ作りとした。折り目に接してない場所や敷地の大きい場所では、簡易的な配置図を置き出入口がどこにあるかを記載した。これにより、目的の蔵の見落としをなくし、行田特有の入り組んだ道をマップだけで巡ることができるようになる。

4. おわりに

本制作は、来訪者へのヒアリングと自分自身の経験をもとに、ミウラ折りをを用いた携帯しやすい「足袋蔵のまち行田」マップを提案した。

【参考】

三浦公亮『地図・折り紙・宇宙-ミウラ折りをめぐって-』日本国際地図学会 1997年

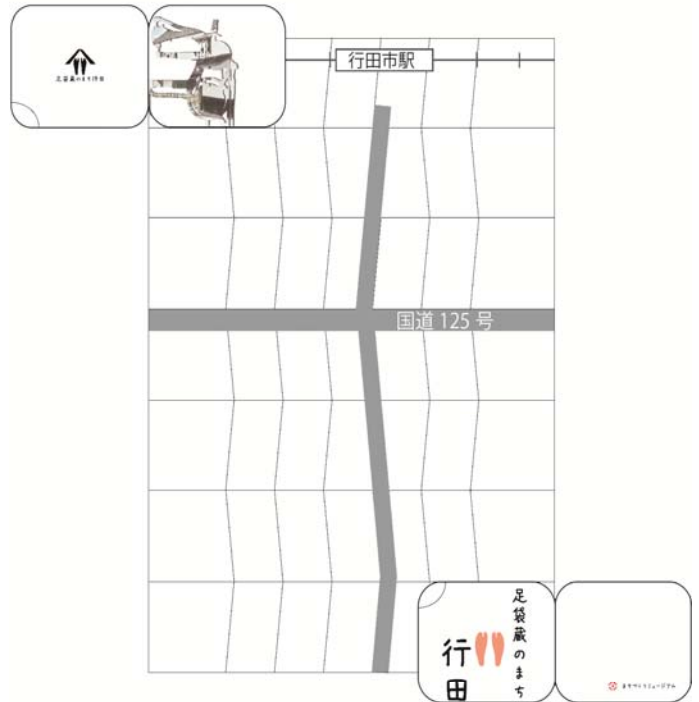


図3. ミウラ折りをを用いたマップの展開図



図4. 「足袋蔵のまち行田」マップ